

落語家をやっております

桂伸べえ(本名:小笹 利晃)

松江北高 2008 年卒、59 期

落語家

(2025 年 5 月近況報告)



はじめまして桂伸べえと申します。落語家をやっております。落語芸術協会という団体に所属しております。階級が二つ目です。

いきなり落語家と言われても、なんだこの人はと不審に思われた方もいらっしゃるでしょう。4月26日、東京双松会の春の懇親会に初めて参加し、近況報告を書かせて頂くことになりました。

1. 落語家になった経緯

何から書けばいいのかわかりませんので、まずどうやって落語家になったのかということから書きます。私は大学生のときに図書館でなぜか落語のCDを借りました。なぜ借りたのか今となってはよく覚えてません。本当になぜか借りました。それまで落語を聞いたことはまったくなかったです。はじめて落語を聞いたとき、なんだこれは、おじいさんがボソボソしゃべってるだけじゃないかと思いました。そしてそのボソボソしゃべってるおじいさんに興味を持ちました。そしていつからか落語家になりたいと思うようになりました。大学卒業と同時に今の師匠である桂伸治に入門しました。入門の経緯について感動的

なエピソードがあればよろしいですが、そういうものが一切ないです。ただ落語をやってみたかったという理由だけで入門しました。本当に何も考えてませんでした。今となってみると、自分でもよくこんな大胆な決断をしたなと思います。

2. 落語界の階級制度

ちょっと専門的なお話をしますと落語界には、前座、二つ目、真打という階級制度があります。僕は今、二つ目という身分で、あと3、4年くらいすると真打になるのではないかという時期にあります。よりいっそう精進しなければならないという時期です。何より、今からドキドキしております。

3. 落語について

落語についてですが、落語はとにかく目の前のお客さんに楽しんで頂くことが大事だと思っております。毎回爆笑になればよろしいのですが、中々そう上手くいきません。ちょっと上手くいったかなと思って、後日別の場所で同じようにやってみたら、まったくウケなかったなんてことがよくあります。毎回、お客さんが違うのでその場その場で演目を選び、しゃべるリズムやテンポや間を考えて対応しなくてはなりません。日々努力を重ねているつもりですが、とても難しいです。

4. 古典落語と新作落語

入門して長らくは古典落語といわれる、江戸時代からある噺を師匠から教わ

り高座でやっておりました。しかし少し前から仲間に誘われ、新作落語にも取り組むようになりました。新作落語は落語を自分で作って自分で演じるものです。古典落語は先人から伝わり、いろんな人によって磨かれたものを教わって高座でやるので、難しいですがウケるウケないは別として形にはなります。すみません、形にはなるなんて偉そうなことをいってしまいました。私は形にならないこともあります。本当に難しいです。新作落語は自分で作って自分で演じるので、本番の高座でやってみると、お客さんに意味不明と思われ、最初から最後までまったくウケないことがあります。それなら古典落語だけやっていればいいのではと思われるかもしれません。実際そうだと思うこともあります。じゃあなんで新作落語をやるのかというと、新作落語は今の時代の噺なので、今しか作れない噺があると思うし、何より楽しいからです。例えば、古典落語には絶対にスマホは出てきませんが、新作落語には出てきても大丈夫です。ちょっと話が専門的になってきましたのでここで切り上げます。

5. 浅草演芸ホール(6月6日から6月10日)がおすすめ

今後の予定ですが、都内で色んな落語会があり、ちょこちょこ出ておりますが、おすすめは6月6日から6月10日までの浅草演芸ホールです。色んな芸人が出てくるので、どなたにもお楽しみ頂けるかと思います。私に限らず、落語にご興味を持って頂けると嬉しいです。秋の総会にも参加させて頂く予定です。よろしくお願いします。落語をよろしくお願いします。



5月1日から新宿末廣亭で落語芸術協会の真打昇進披露興行が行われました。新真打の春風亭鯉づむ師匠は私の大好きな先輩の一人です。



春風亭鯉づむ師匠ののぼりの別バージョンです。のぼりはお囃屋のお客様からのお祝いです。私も頂戴したいものです。その際はよろしくお願いします。



5月11日からは浅草演芸ホールで行われました。外観だけでなく中の様子も写真でお伝えしたいのですが、難しいので外観だけになります。



のぼりの近くからの写真です。

6月11日からは池袋演芸場で真打昇進披露興行が行われます。

ご来場して頂けると、外観だけでなく中の様子も見られます。

まだ間に合いますのでご興味のある方はぜひいらっしゃってみてください。